

だれのためのお守り

私が基礎看護学実習Ⅰで、初めて出会った患者さんは優しそうな表情をした九十代後半の女性でした。心不全の悪化により急性期病棟で治療が行われ、私と出会った時の患者さんは自宅復帰に向けたリハビリテーション目的で地域包括ケア病棟に転棟してこられて数日が経った頃でした。

初めてお会いした日は金曜日でした。私は何をお話ししてもいいのかも分からずに、むしろ患者さんの方が私に気を遣ってくださるような状況だったことを覚えています。徐々に自宅での過ごし方、ご家族の話、患者さんの好きな食べ物や飲み物を聞いていきました。たまに娘さんがお見舞いに来てくれること、あとは甘いジュースとアイスクリームが大好きなの、と嬉しそうにお話してくれました。

次に月曜日の朝に患者さんの元へ行くと、オーバーテーブルの上に空になったカルピスの小さなペットボトルが置かれていました。患者さんへカルピスのことを聞くと、途端に嬉しそうな表情になり「日曜日に娘がきてくれて、カルピスを買ってくれたの。アイスクリームは買ってきてくれなかったけどね」と、まるで少女のような無邪気な様子で教えてくれました。そんなお話をしていると病室にケアワーカーさんが環境整備にこられました。各ベッド横のごみ箱のごみを集めて最後に私の受け持ち患者さんのベッド周りを見渡しました。オーバーテーブルの上の空のペットボトルを見て、良ければ捨てておきましょうかと患者さんへ確認を取りました。すると患者さんは首を横に振ってそれを断りました。私は、大好きな娘さんが買ってくれた大好きな甘いジュースのペットボトルを、さみしくないように置いておきたいのだろうと考えていました。後から、理由を聞くと日曜日にお見舞いに来てくれた娘さんは病気になってしまい、お見舞いにはしばらく来られないとのことでした。だからこれは「お守り」にして置いておきたいと。私が、さみしいですね、早く娘さんに会えるお守り、大事に置いておきましょうと言うと、患者さんは「これは私のお守りじゃなくて、あの子の病気が早く良くなるためのお守りなの」と寂しそうに返されました。私は目からうろこが落ちたような思いでした。

私は患者さんのもつ強さを見たと思います。ご自身も入院をしている状況で、娘を思う母としての強さは患者さんの活力になったのか、金曜日は中断されていた歩行訓練のリハビリテーションにも一生懸命取り組んでおられ、作業療法士さんも驚いておられました。私は、そういった人の持つ強さ、どんなに些細なことでもその人の原動力、励みになるようなものに気付き、尊重していけるような看護師になりたいと改めて気付くことができました。